

DIK & Company

Culture Book

この資料について

株式会社DIK&Companyのコアバリューは、「データ活用による企業変革」です。方法は大きく2つ。ExcelやPowerPoint、ChatGPT、Microsoft 365 Copilotなどオフィスワーカーの必須ツールでデータを扱う力を高める研修事業を「個の改革」として行い、データやAIの利活用を高める法人向け戦略コンサルティング事業を「企業の改革」として行います。

DIK&Companyでコンサルタントとして働くということは、自分自身が日本屈指のデータリーダーになり、日本経済を牽引する代表的な大手企業を相手に、主体性を持ってプロジェクトを推進する立場になるということです。

学生インターン、アルバイト、正社員、業務委託と幅広い勤務形態でたくさんの年代・職種の方がDIKの仕事に携わっています。このCulture Bookでは、DIKチームの全員が共通して持つ「アタリマエ」を言語化しました。

ぜひご一読いただき、当社のカルチャーを知っていただければ幸いです。

代表取締役 中田元樹

Index.

目次

DIK&Companyについて

DIKの名前の由来 p06

DIKのデータリーダー構想 p08

DIK&Companyのカルチャー

1. インターンシップの特長 p10

学生ではなくプロ一年目 p12

とにかく打席に立つ p14

2. 働く上での“アタリマエ” p16

相手の期待を超える仕事をする p16

自分の仕事の範囲を決めるのは自分 p24

途中でサジを投げない p28

「スタンス」を取る p36

3. 働き方の“アタリマエ” p46

マルチタスクをアタリマエにする p46

遅刻をしない p52

4. 働くみんなの“アタリマエ” p56

全員「さん付け」、敬語で話す p56

人になにかを教えるのが好き p60

みんなで集まってご飯に行く p64

音楽が好きな人が多い p68

成果には厳しく、人柄は朗らか p72

DIKの名前の由来

D データ の力で、
I 生き方 を
K 変える 会社。

正しくデータを扱い、正しく示唆を導き、正しく判断を下せる個人は、社会で求められるビジネスパーソンになり、自分の生き方も自由に選択しやすくなります。

データを起点に個人の生活を、ひいては世の中を良くしたいという思いから、DIK&Companyという社名が生まれました。

DIKのデータリーダー構想

分析力、改革力、AI活用力の3つを兼ね備えたビジネスパーソンを「データリーダー」と呼んでいます。

「分析力」とは、データを起点に勝ち筋を見出す力のこと。

「改革力」とは、強い意志と明確なスタンスで組織を変える力のこと。

そして「AI活用力」とは、AIを駆使して自分自身を高度化する力のことです。



現代社会において、“データ”はあらゆる意思決定の拠り所になっています。例えば小売業界では天候・売上・来店客の動きをリアルタイムで分析することで、商品配置や仕入れを日単位で最適化することは当たり前になっていますし、エンタメ業界では視聴履歴をもとに、一人ひとりの利用者が次に見たいと思う作品を高精度で提示する仕組みが整えられています。

AIの台頭により現代は「情報の取捨選択」がより難しくなっています。“データドリブンな正しい判断”ができる「データリーダー」の存在がすべての企業に求められています。

自らがデータリーダーとなり、日本企業に1人でも多くのデータリーダーを輩出することが、DIKが果たすべき使命だと考えています。

1. インターンシップの特長

DIK&Companyで働くインターン生には、日本でもトップクラスの「裁量権」が与えられていると自負しています。

任される仕事の幅広さや深さ、そして責任の重さは、正社員とほとんど変わりません。もし皆さんが一般的なコンサル会社のインターンやアルバイトを想像しているなら、そのギャップに驚くと思います。

——なぜそこまで大きな裁量をお任せするのか。それは、DIK&Companyが事業会社である以前に「教育機関」であるからです。

人生の中で最も変化率の高い「10代、20代」という時期の経験は、その後の人生を大きく左右します。

私たちは、若者の可能性を心から信じています。

だからこそ、大学生インターンには、本気で仕事に没頭できる環境と経験を提供しています。

学生ではなく トッププロ。

DIKのインターンでは「大学生だから」という言い訳は通用しません。インターン中は学生であることを忘れ、プロのコンサルタントとして行動してください。

自分の年上の社会人に講師として研修をするときも、上場企業の役員にプレゼンをするときも、「学生だからこの程度で仕方ない」とは誰も思ってくれません。

私たちの大切な「お客様」の仕事を任せる以上、インターン生にも一流の振る舞いを求めます。

「まだ未熟ですが」「不完全ですが」「時間がなくてここまでしか」——そうした言い訳も不要です。

とにかく 打席に立つ。

一般的なコンサル会社では、新入社員は約2年間、お客様の前には立たず、先輩の資料作成やデータ収集に専念する「下積み時代」を送ることが普通です。

DIKでは、学生のうちからお客様に提案し、議論し、契約を勝ち取る経験を積むことができます。

練習だけで終わるのではなく、
実際に「試合で打席に立ち、バットを振る」。

——自ら機会を拡げチャンスを掴もうとすれば、そんな実戦の場を大学生インターンの間に勝ち取ることができる環境です。

2.

働くうえでの“アタリマエ”

相手の期待を
超える
仕事をする



未熟者ですが…
微力ながらお力添え…



私にお任せください

あなたはプロフェッショナルとしてお客様の前に立っている。
マナーとしての謙遜よりも、「言い切る覚悟」を持ちましょう。

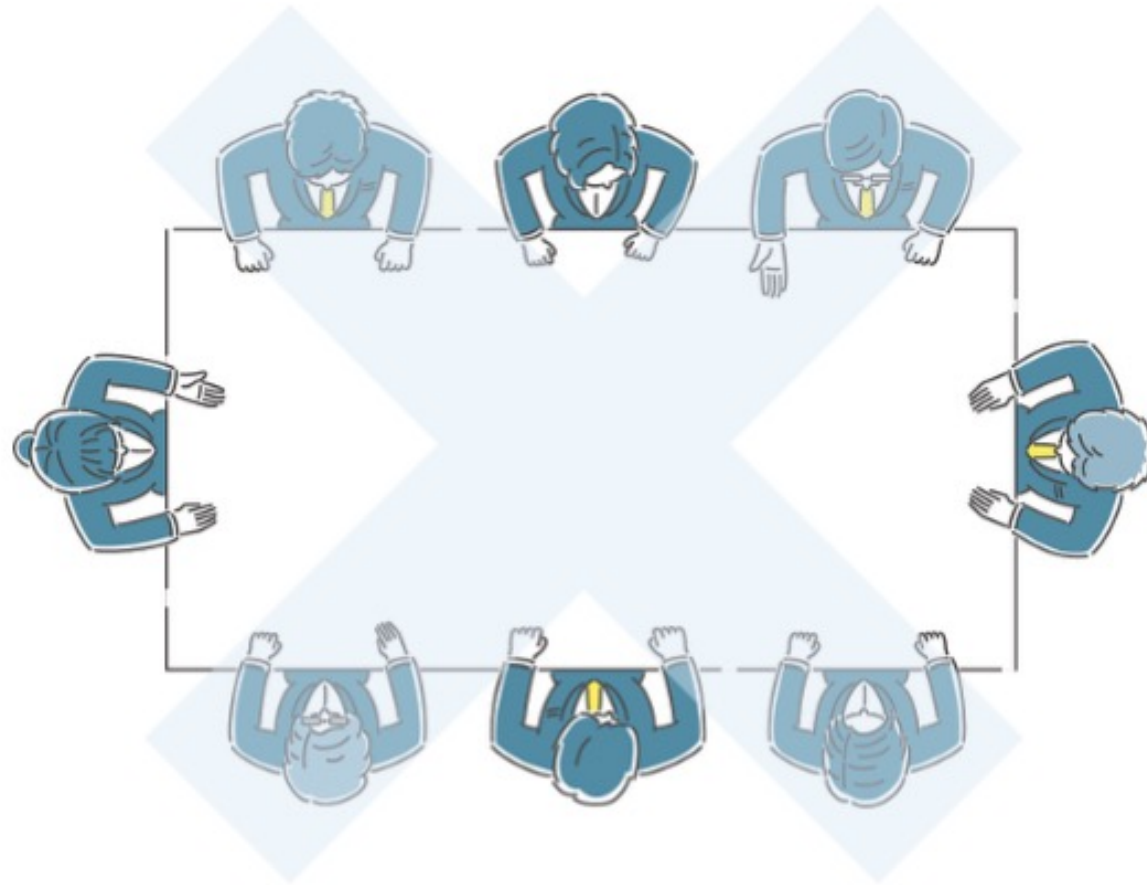


相手の期待通りの 仕事をする



相手の期待を 超え続ける

決められたスコープにとらわれず、
お客様の企業価値向上のための
方法を考え続ける。



プロジェクトの
キックオフは
ただの顔合わせ



「最終報告」レベルの
アウトプットを
キックオフでぶつける

「パワフルキックオフ」で、
初回から相手の期待を大きく越えよう。

2.

働くうえでの“アタリマエ”

自分の
仕事の範囲を
決めるのは自分



自分の役割は 会社が与えてくれるもの

池の鯉のように、口を開けて
仕事を待つだけではいけない。



自分のドメイン(領地)は 自分が戦い勝ち取るもの

経営とは会社を大きくし続けること。
働く一人ひとりが自分の影響範囲や
お客様への提供価値を拡大する気持ちを持つべきです。

2.

働くうえでの“アタリマエ”

途中で
サジを投げない



取得できる 別のデータを探して アウトプットを作り切る

似たようなデータはないか。他データから推論できないか。
当初の想定が外れても決して諦めず、結論は必ず出そう。



データが足らず 当初想定していた 分析ができない



「難しい」が口癖



困難は分割し
道筋を立てる

仕事が難しいのは当たり前。
どんな難題でも、コンサルタントが
「難しい」と匙を投げてはいけない。



仲間を頼って
顧客の期待を超える
レベルに仕上げる

あなたの実力不足は、品質を落とす理由にならない。
スキルが足りなければ周りを頼ろう。



自分の実力では
ここまでが限界

2.

働くうえでの“アタリマエ”

「スタンス」
を取る



たたき台を持って 相談をする

「自分はこう思うのですが、いかがでしょう」
人に頼るときには、まず自分のスタンスを示す。



自分の意見がないまま 相談をする



ミュートは解除せよ

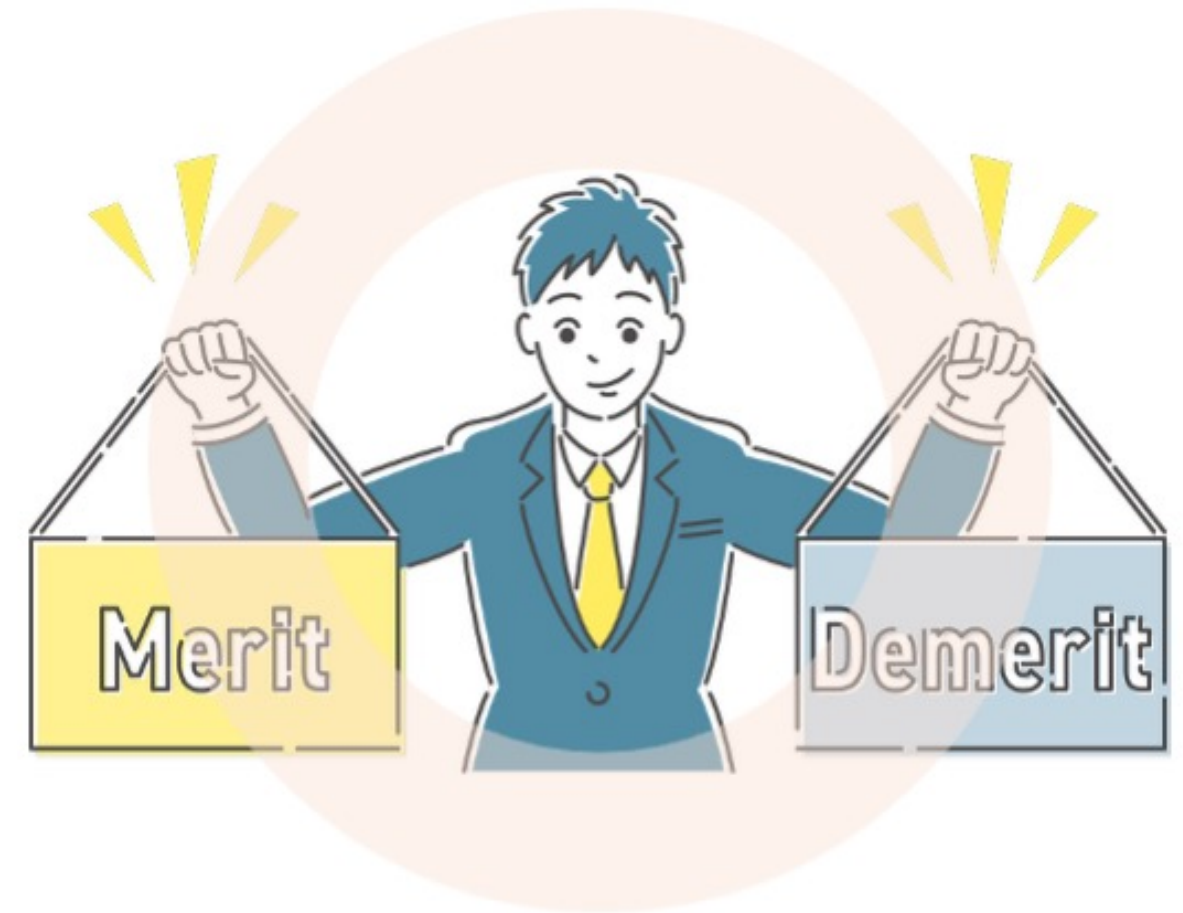
DIK&Companyでは多くオンライン会議を使いますが、
ミュートにして会議参加することは禁止です。



オンライン会議で ミュートで一切発言しない



A～Cの3プラン、
どれがいいですか？



〇〇という理由で
A案が最適です。

ただ相手に判断を委ねるのではなく、
明快な根拠とともに方向性を示そう。



私は〇〇と思います。

スタンスを取るというのは、例えばあなたが美容師なら、
「どんな髪型にします？」ではなく
「〇〇なのでこの髪型が似合うと思います」と伝えること。



〇〇と思いつつ、
〇〇とも思うんですが…

結局どちらのスタンスなのか
わからない発言は禁止です。

3.

働き方の“アタリマエ”

マルチタスクを
当たり前にする



ひとつのプロジェクトを
突き詰めたい



複数のプロジェクトを
同時に成功へ導く

いわゆる一点集中型の仕事の仕方は
DIK&Companyのカルチャーにマッチしません。



テスト期間だから
インターン稼働は減らす



テストもインターンも
両立する方法を探す

学生ではなくプロとして報酬を払う以上、
学業とインターンの両立は必須です。

3.

働き方の“アタリマエ”

遅刻をしない



会議に数分遅れて 参加する



1分も遅刻しない

サービス業でありプロのコンサルタントであり、
一人の人間として遅刻は「1分」でもNGです。
遅刻分数×分給×人数の損失金額を考えよう。

4.

働くみんなの“アタリマエ”

全員「さん」付け
敬語で話す



後輩だから タメ口で話す



相手に敬意を持って 敬語で話す

年齢、DIK歴、職歴は一切関係ありません。
対等な立場のプロとして、社内は誰であっても
「さん」付けで敬語で話すカルチャーです。

4.

働くみんなの“アタリマエ”

人になにか
教えるのが好き



自分の知識やスキルは
誰にも共有しない



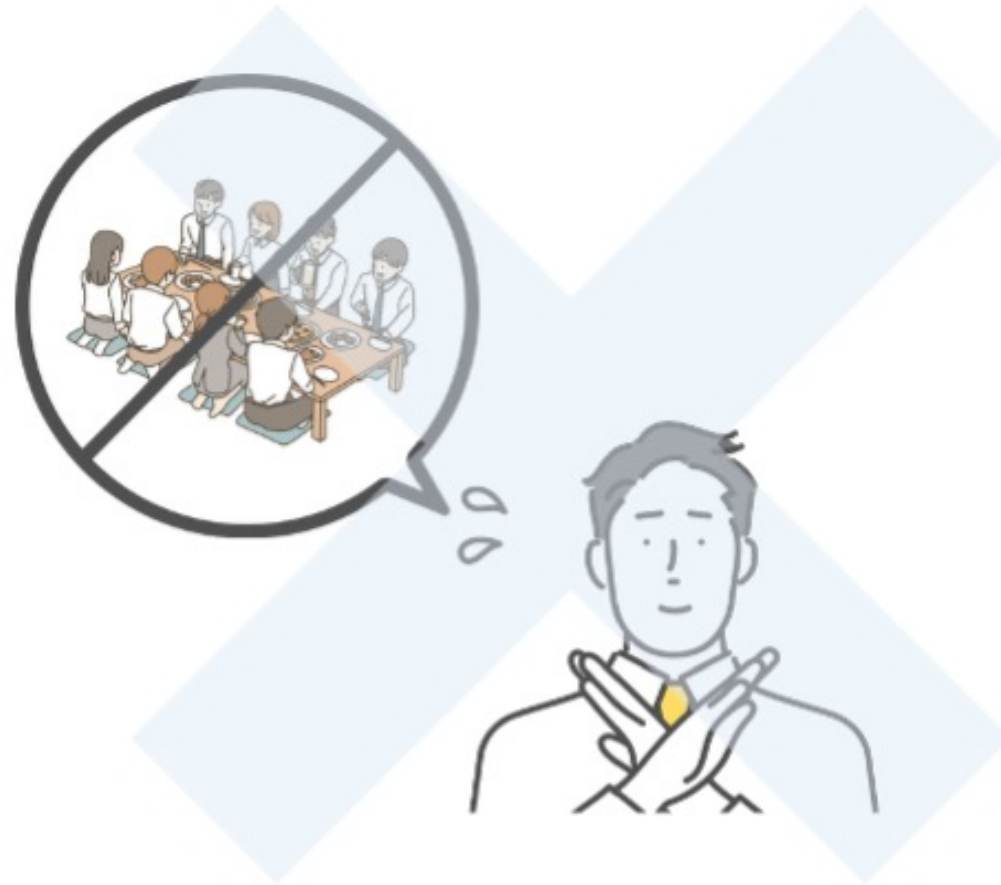
相手のためになることは
積極的に共有する

教育業界出身の社員やインターン生が多いこともあり、
社内のナレッジ共有や仕事のフィードバックは
「そもそも好き」な人が多い環境です。

4.

働くみんなの“アタリマエ”

みんなで集まって
ご飯に行く



わざわざ皆で集まるなんて
非効率だ



顔を合わせることが
毎回楽しみ

たまにある食事会や、他愛のない会話も心から楽しめる。
「ハレ」も「ケ」も全力なメンバーが集まっています。

4.

働くみんなの“アタリマエ”

音楽が好きな
人が多い

なぜだかDIK&Companyには
楽器や歌、ダンスなど、音楽が好きなメンバーが
多く集まっています。

※採用要件には一切関係がありません。



4.

働くみんなの“アタリマエ”

成果には厳しく
人柄は朗らか



DIK&Companyのインターンは決して楽ではありません。
はじめは厳しいフィードバックが続くかもしれません。

コンサルタントはお客様が解けない課題の
解決を求められる職業。

常にハイレベルのアウトプットを求められるため、
インターン生であるあなたには
一刻も早く成長してもらわなければなりません。



しかしあくまでコンサルタントして、教育者として、
必要なことを指摘することはあっても、
あなたの「人格」まで否定する人は、DIKにはいません。

これからインターンを受けるあなたのことも、
私たちは対等な「仲間」だと思っています。

自分のスキルを、
学生レベルから”卓越”させたいのなら、
私たちはあなたの応募を心よりお待ちしております。



Culture Book

[初版] 2025年11月発行

DIK & Company